

天和三年三月二十九日
品川 鈴ヶ森刑場

お七殿…

どうしてこのようなことになつてしまったんだ…

オオオオオ

江戸の悪女を新解釈で描く官能時代劇シリーズ開幕!

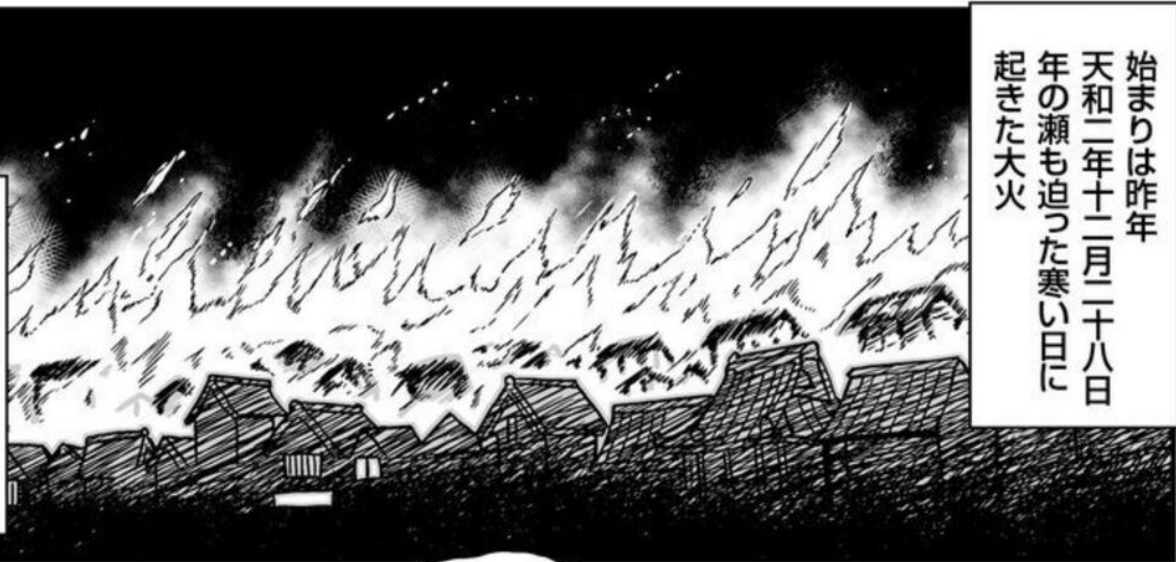
大江戸ターティ★ヒロイン シリーズ第一弾

八百屋お七異聞

comic by 連野悠二

始まりは昨年
天和二年十二月二十八日
年の瀬も迫った寒い日に
起きた大火

駒込大円寺から
出火した炎は
瞬く間に神田台地
一帯を焼き尽くした



吉三郎は訳あって
駒込正仙寺に
若衆として世話に
なっていた

正仙寺には
焼け出された
江戸の庶民が
避難してきて
いたのだった

大丈夫ですか?
私目が良いですから
抜いて差しあげましょう

わかりました
和尚様

指に
トゲが...

あ…

そこで二人は
出会ってしまった

あ

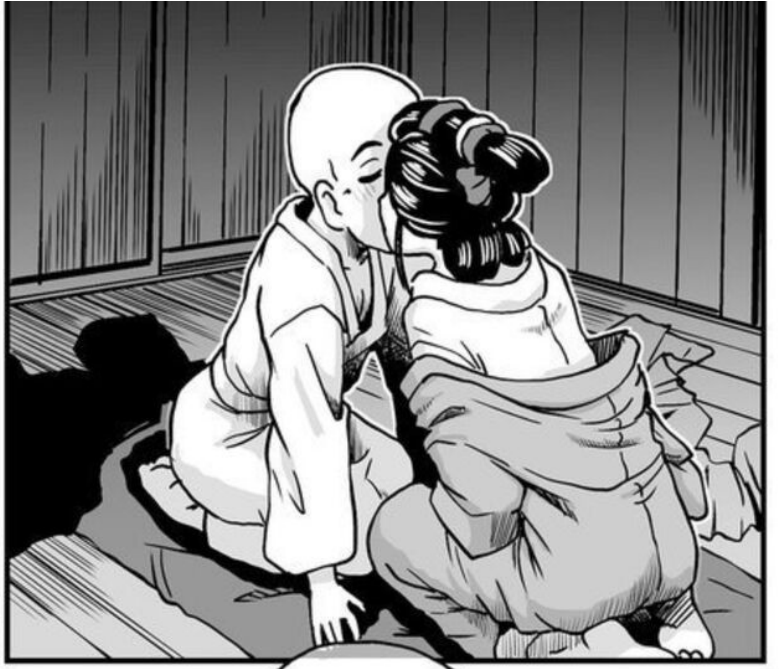
娘の名はお七
本郷森川宿の青物問屋の
一人娘

大名家を顧客に持つ
お七の家は裕福な商家で
何不自由なく過ごしていた

吉三郎様…

若い二人は
すぐに恋に落ちた







え...えつと
あれ?

うまく...
入らない...

あ

う...うしろで
かたじけなく

かつ...
かたじけなく...

うしろで...
よろしいで...
かたじけなく?

はい...
そのまま奥へ...



吉三郎様と
一つになれたことが
嬉しゅうございます



大丈夫で
ござるか？

ちよつと…
痛かった
ですけど…



私には
夢があるのです



お七殿！

私の家は譜代大名の家老を代々務める武家でした

しかし主家が世継ぎ問題でお取り潰し

煽りを喰らい家老であった我が家も家名断絶 一家離散となったのです

年若かった私はご住職の計らいで

こちらのお寺で若衆としてお世話になっております



いつの日か必ず
仕官を果たし

おほ
おほ
おほ

必ず武家として
家名を再興
させるのです

ああ
あああ



その時はお七殿
正室として私の所へ
来て下され

はい

二人はその後
毎日のように
愛をはぐくんで

数日の後

精が出るの
吉三郎

何か良いことでも
あったのかの？

はい
まあ

あ
おはようございます
和尚様

では更に
良い知らせじゃ
お主武士に
戻れるぞ

つ…ついに
仕官の口が
見つかりましたか？

いや
婿入りじゃ

婿…いり…

先日
さる大名のご嫡男が
急逝されてな
世継ぎがおらんことが
幕府に知れたら大変じゃ
そこでお主を
先代が寺に預けた子
ということにという
話になっての

し…
しかし…

確かに
入り婿では
実家の家名は
継げぬ

だが
小なりといえど大名家じゃ
ご先祖にも面目躍如と
なるじやろし

ワシの面子も潰さんで
おくれよ

はい…

先方も幕府への
届け出もある

一両日中に
返事をしておくれ

おん
は



どうすればいいんだ…?

和尚様の話は願ってもない良い話だ…



今時新たな仕官など叶うはずのないことだとわかっていただき



だが婿入りとなればお七殿を……



今日はお元気がないようですけど…

すみません
ちょっと疲れて
いるみたいで…



私のこと…
飽きられてしまった
のではないでしょうか？

そっそんなこと
あるわけないで
ござる！

それなら…
良かったです

どうかした
のですか？

実は…

家が修築され
お寺を出て行くこと
になってしまったのです…

私！
吉三郎様と
離れたくない！

かば

お七殿…

ですが
お母様には
逆らえません！

でも…でも
会えないと思うと
気が変になりそうです





お七殿
私も会えなく
なるのはとても
悲しいです

ですが
必ず会いに
参ります

しばしがまん
して下さい

はい

必ず会いに
来て下さいませ

ずっとお待ち
しております



和尚様
先日のお話ですが
自分にはすでに…

お七殿のことは
諦めよ



二人の関係は
知っておる

今回の話は
お七殿の両親からも
お願いされておる

お七殿にも
品川の商家から
婿を取ると言つて
おられる



え?

は……



吉三郎も武士に戻り
先祖の……両親の
無念を晴らさねば
ならんのだろうか？
これがお互いのため
なんじゃ
わかるじやろ？

んん……



……んん
起きて
下ろこ

それから半月ほど



やっと起きて
下りました
吉三郎様



おし
お七様？





どうして!?
どうして!?

あぁ
吉三郎様のお摩羅
懐かしゅう
ございます

懐かしゅう
ございます

お摩羅

お摩羅



お...お七殿
どうして此処に?

吉三郎様が全然
会いに来て下さらない
のですもの



五臓六腑に
染み渡りますわ

お摩羅

ああ
夢にまで見た
吉三郎様との
まぐわい

まるで
極楽浄土に
来たようですわ

んん!

お七殿…
ちよつと待つて…
実は私は…

うっ

なっ何を

わたし…
赤子^やが
でままして
くれます

えっ?

そっそんな
早すぎでは…

あれだけ
愛し合った
のですもの
当然ですわ

それ…
ご覧下さい

オオオ

かつ体が…
動かない…?



この子も
早く父上様に
会いたがつて
おりますわ



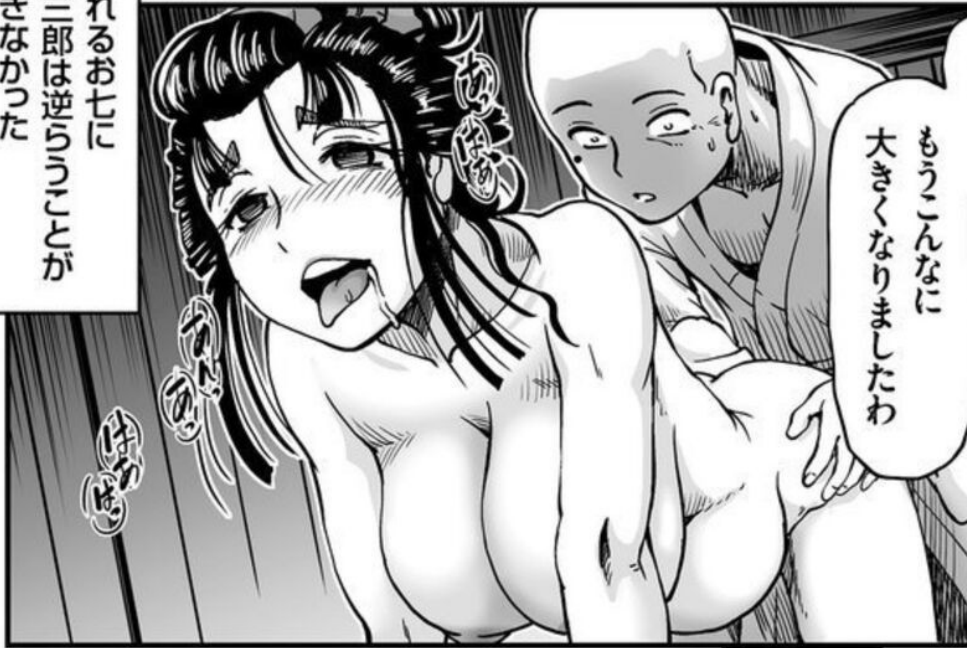
ア

それから
毎日…

夜になると
お七は現れ
朝になると
消えて行った



乱れるお七に
吉三郎は逆らうことが
できなかった



ほら…

もうこんなに
大きくなりましたわ



吉三郎様

吉三郎には
わからなかった

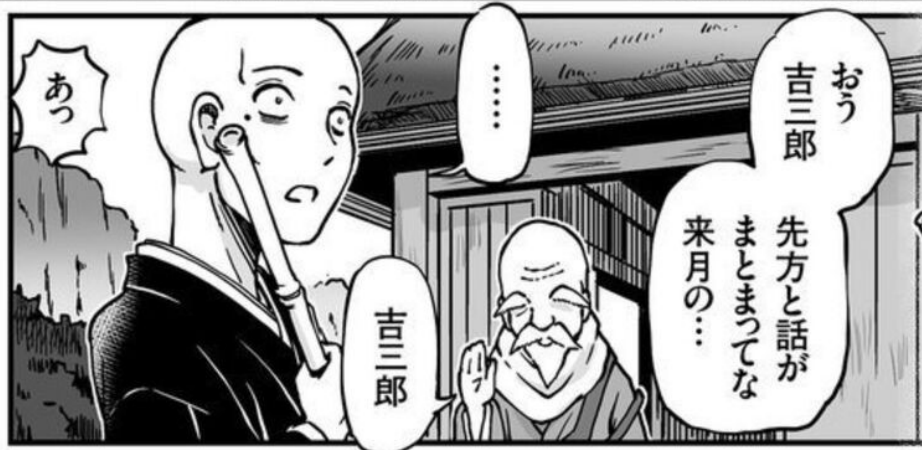
それは贖罪なのか
若い性欲なのか
お七への愛なのか



ずっと……

ずっと親子三人
一緒……ですわ
吉三郎様

目上目下やいへん
吉三郎





ホエサグロ...
ママ?!

お七どの...



次の夜
護符を貼り
結界を巡らせ
お七の侵入を
防いだ

吉三郎様！

吉三郎様！

どうして
入れて下さら
ないのですか？

ややも泣いて
おります
吉三郎様！

さあ 熱い接吻を
いたしましょう
私の乳を揉み
乳首を甘噛み
して下さいませ

吉三郎様の
大きいイチモツで
濡れるホトを
貫いて五臓六腑の
蕩けるような
まぐわいで愛を
語り合いたしよ

おやめなさい
お七殿
そなたも知って
おろう
縁がなかったと
諦めなさい

和尚様
……

申し訳
ござらぬ
申し訳
ござらぬ

大変です！



早く水を
持ってこい

パイパイ
パイ

お七殿…



火事だ！
早く火を消せ！



ヤン
ヤン
ヤン

吉三郎様！
お七はここにおります

すぐに参りますわ



本郷の青物問屋
が火事です！

えっ？

吉三郎は後に
すべてを知った



寺を出たお七は
吉三郎との関係で
母から激しく
叱責され会うことを
禁じられた



それでも吉三郎の元へ
行こうとするので
蔵に閉じ込められて
しまった

吉三郎に会えぬ
寂しさと絶望感で
やがてお七の心は
病んでいった

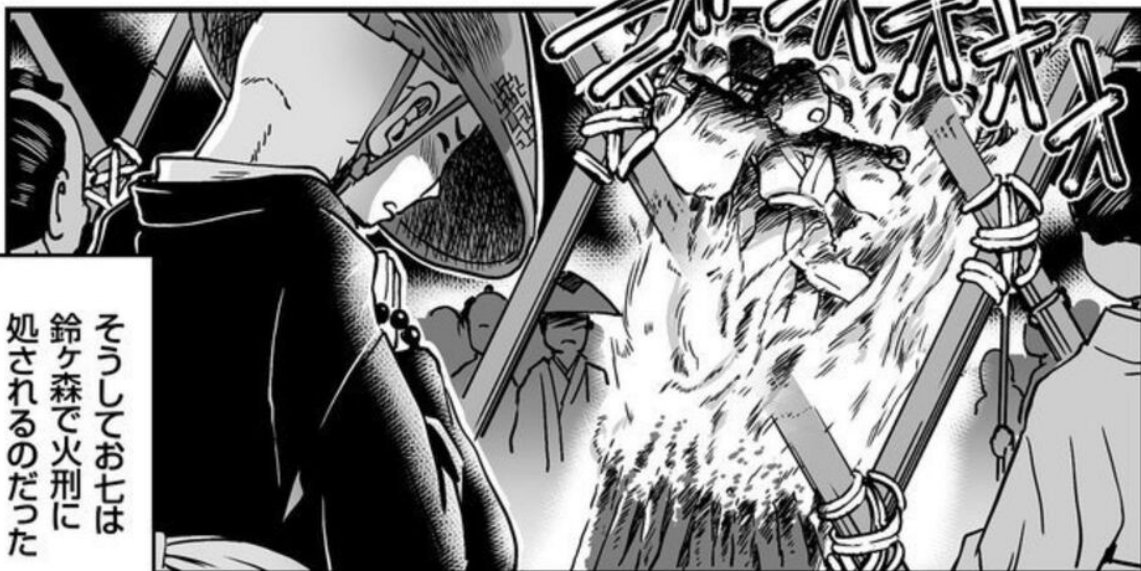


ああ…

お七ちゃんお七ちゃん

そしてまた火事が
起これば吉三郎に
会えると思い
蔵に火をかけた
のだった

当時火付けは大罪
女であろうと死刑は
免れなかった



そうしてお七は
鈴ヶ森で火刑に
処されるのだった



申し訳がらぬ
申し訳がらぬ
申し訳がらぬ

迷わず成仏
して下さい
お七殿

吉三郎が見たのは
お七の想いの果ての
生霊であったのだ



お七の想いの果ての生霊...

うれしい...
逢いに来て下さった
のですね

ズゴ



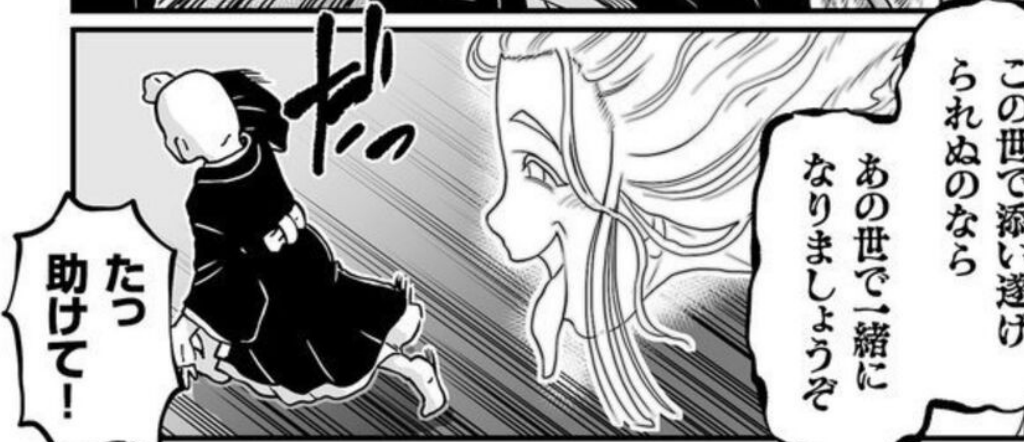
さあとも
彼岸へ参りましょう

うすうす!!



この世で添い遂げ
られぬのなら

あの世で一緒に
なりましょうぞ



たっ
助けて!



まだ
死にたくない



許しんて
お七殿



吉三郎様あ

あああああ

あああ



結局
あの世でも
結ばれぬ
二人であった